

○ 「放射線科の機器紹介シリーズ（2）」

当院放射線科では、多数の放射線機器を保有し患者様の診察を的確に行う為に、検査を行っております。患者様に安心して検査していただくために、当院放射線科には、どんな機器があるのか先月号にひきつづき放射線科公文弘技師長、に紹介していただきます。

CT

前はMRI撮影装置の紹介でしたが、今回は高額医療機器の二番目にあたりますCT撮影装置の紹介をさせていただきます。価格はMRI装置と同様に数千万円から数億円と大変高価なものです。

歴史

CT撮影装置は、コンピューターの発達と共に進化してきました。初期は撮影部位が頭部のみでした。現在、当院で使用されているMDCTは人体のどの部位でも撮影可能な装置で、1秒間に30枚の画像を描出しますが、初期のCT装置では、正確ではありませんが10分間で1枚程度でした。今では考えられませんが頭部撮影1名終了後、画像が出来上がるまでの待ち時間で食事ができる程度でした。それが現在では医療分野にとって、なくてはならない装置となっています。また、他の分野（工業、考古学、死因検索、等）でも広く使用されています。



原理

MRIは、体内からの信号をキャッチする装置でしたが、CT装置の場合X線をビームとして照射しながら人体の周囲を一回転する間に反対方向で透過してきたX線をキャッチする装置です。当初は、動きに弱く患者様の息止めも大変でしたが、現在では解析装置の発達により、不可能とされていた（息を止めても止まらない）**心臓撮影も可能**になりました。当院でも一昨年より撮影されています。何故撮影可能になったのかと言いますと当初X線ビームの解析限界が一回転1cmであったものが、現在では心臓の幅（10～20cm）を一回転情報で解析出来るようになった為です。

欠点

人体のそれぞれの組織、大きく分けてX線の吸収値が高い骨、吸収値が低い肺、中間の肝臓等の組織に分類しそれぞれの数値をレベル化し画像にするのですが、骨よりも吸収値の高い、人体にできる石（腎結石、尿管結石、胆嚢結石等）、体内埋め込み金属などはアーチファクト（虚像）が発生し正確な画像になりません。

検査方法

撮影原理上、各組織を判別する為に濃度差をつけなくてはなりません。その為に血管内にX線吸収値の高い液体（造影剤）を使用します。稀に副作用が発生しますので造影剤を使用する場合は問診など事前の備えが必要になります。

○ 可憐な花を咲かせました！



放射線科受付のまえに置いてある観葉植物「幸福の木」に可愛い小さな花が咲き、患者様や職員の間で、ちょっとした話題となりました。この観葉植物は、放射線科スタッフが世話をしているもので、ある日職員が蕾のようなものに気づき毎日観察していたところ、花を咲かせたものです。「幸福の木」に花が咲いたということで、スタッフが幸せなのか？珍しさもあり初めてみる花に職員たちはビックリ！患者さまや職員も「これは珍しい、可愛い」などと足をとめ、小さな花に見とれていました。

○ 病診連携活動

当院は、平成20年11月から、つつい脳神経外科と相互に診療協力を行っております。MRI機器の共同利用や、互いの得意分野となる疾患について患者さまの紹介、また、毎週火曜日には、筒井巧院長により、当院内入院患者さまなどの診察を行い、地域協働医療に取り組んでおります。

当院外来受診中の方で、頭痛やめまい・認知症（もの忘れ）・脊椎の病気など脳神経外科疾患が気になる方は、一度つつい脳神経外科へ受診してみてください。

病院概要

病院名

つつい脳神経外科

診療科目

脳神経外科・内科・
リハビリテーション科・
整形外科・神経内科

電話番号

0887-34-0221

病院写真



診察表

診療時間	月	火	水	木	金	土
午前 9:00~1:00	○		○	○	○	○
午後 2:00~5:00	○		○	○	○	○

第2・第4土曜日（午前中）は整形外科の診療を行っております。

休診日は、火曜日・日曜日・祝日です。

住所・略図

〒784-0004

安芸市本町2丁目2-1

